静岡県立大学短期大学部東日本大震災復興支援活動
「HPS スマイル・プロジェクト」第６弾報告

＊この活動はオートレースの補助（24-0-047）を受けて実施しました。

◇日時：平成 24 年 12 月 21 日（金）～25 日（火）
◆場所：福島県相馬郡新地町
　　1）新地町児童館（22 日）
　　2）小川応急仮設住宅集会場（23 日）
　　3）雁小屋応急仮設住宅集会場（24 日）
◇参加者：HPS４名（富永、佐伯、佐野、中村）
　　介護福祉専攻１年学生５名
　　社会福祉学科教員１名

◆実施概要：

今回の復興支援活動は、㈶JKA（オートレース）の補助を受け、２ か所の応急仮設住宅及び新地町児童館において、子どもたちの遊び支援を中心に、子どもたちの保護者に対する遊びのレクチャーやレスパイト・ケア、子どもの遊びを見ることを楽しみに集まる仮設住宅の高齢者へのふれあい、そして児童館職員への簡単な道具を使った遊び方法の伝授など、HPS の専門性を活かした支援活動を展開したものである。子どもたちの冬休みとクリスマス連休が重なり、家族旅行などにでかけている子どもたちも少なくなかったが、HPS の創造的な関わりや年齢も近い学生たちのサポートにより、集まった子どもや家族等と室内で多様な遊び活動が展開できた。

学生・教員はレンタカー１台を借りて２１日夜本学を出発。途中、東北自動車道ＳＡで仮眠し、２２日朝に鉄道を使って移動する関西方面からの HPS３名と東北新幹線白石蔵王駅で合流。駅でレンタカー１台を借り、活動地の新地町へ向かう。壊滅的な被害のあった海岸部を視察後に、新地町児童館で活動開始。カラフルなオリジナル・コマづくりや色塗りを楽しみつつ、児童館の環境・スペース的なメリットを活かした段ボールの街づくりの準備を児童館職員や子どもたちと取り組む。線路や道路が印刷されたテープを思い思いに張り巡らし、自動車、鉄道、人、動物、家、木などを紙粘土や段ボールで作る楽しい作業。そのうちに学校や駅舎を作る子どもも出てきて、その色を絵の具や手のペイントで塗る遊びに発展。遊びがどんどん広がって、笑いが絶えない楽しい時間を過ごすことができた

２３日朝に国道６号線を南下し、立ち入り禁止区域の直前の地域の被災状況を視察。その後、小川応急仮設の集会場で遊び支援を開始。集会場のスペースが狭いが、遊びコーナーを３か所設け、集まった子どもたちが自由に選択して遊べるよう工夫した。児童館同様な遊びメニューを用意したが、段ボールの街づくりよりも紙粘土によるフィギュアづくりに人気があった。また、現地１００円ショップで手に入れた園芸用カラー砂と段ボールを使った砂遊びも実施したが、砂の中の宝探しや水を入れてぐちゃぐちゃにする遊びに子どもたちは熱中していた。活動後は仮設住宅のクリスマス・イベントに参加し、夜は竹キャンドルに火を灯し、集まった仮設住宅の住民とふれあいの時間を過ごした。途中で HPS１名が神戸より合流。

２４日は雁小屋応急仮設住宅で活動。世帯数は小川仮設より若干少ないが、集会場は広く、遊び支援の活動はやりやすい。比較的子どもの数が多い仮設住宅ではあるが、家族旅行などで留守にしている家族が多いと自治会長さんが申し訳なさそうに話していた。数多くの子どもたちに楽しんでもらえれば越したことはないが（その対応も臨機応変に可能であるが）、我々の支援は HPS の観察力・対応力を活かし、きめ細かく子どもたち個々の個性、年齢、発達などに合った遊びを展開できることに特徴がある。遊びありき、支援ありきではなく、そこに集まった子どもが主体的に自由に伸び伸びと遊べる配慮・工夫を得意とする。また、遊びを通して保護者と子どもとの関わりを広げ、集会場に集まる高齢者が子どもたちの活動を見て楽しむ機会を提供することなど幅広い対象者と内容を展開できるので、子どもの数の大小にかかわらず遊びを手段に「楽しい」時間を一緒に共有することが大切であり、一見単純そうな遊びの中にも HPS としての専門知識や技術が随所に活きている活動の展開を試行錯誤している。HPS として初めて関わる子どもたち個々の理解、遊びに使える空間の把握、持参した道具・材料内での遊びの展開などに課題はあるが、これまでプロジェクトに参加した HPS からのアドバイスや参加した HPS の力量により、非常によい関わりが今回も持つことができた。震災から２年を区切りに支援の形を考えていくうえで、３月に予定している活動を本プロジェクトの総括的な活動にするつもりである。

＜新地町児童館での活動の様子＞

色ペンや飾りでつくる手作りコマの台紙選び

思い思いにキラキラ・ペンでコマに装飾

コマに飾るキラキラ素材をたくさん用意

オリジナル手作りコマの完成

自動車・電車づくりのレクチャー

子どもたちも街づくりの準備に参加

レールや道路のテープで街がどんどん広がる

学校も完成、これから色塗りがまた楽しい

＜小川仮設での活動の様子＞

集会場内を有効に使った遊びコーナー

紙粘土と絵具でフィギュアづくり

子どもたちが作った色とりどりのコマ

真剣な幼児の色塗りと見守る母親

HPS に手伝ってもらってコマづくり

紙粘土工作に集中する子ども

クリスマス・イベントで大いに盛り上がる

夜は集会場前でハートの竹キャンドルに点灯

＜雁小屋仮設での活動の様子＞

比較的広い集会場でまずは色塗り

お年寄りも子どもたちの様子に目を細める

街づくりに欠かせない紙粘土フィギュアづくり

童心に帰ってお年寄りも色塗りを楽しむ

ミサンガづくりも人気メニューのひとつ

集会場内でも工夫すれば砂遊びが楽しめます

親子で自動車づくりに挑戦

鉄道や道路が張り巡らされた街で夢中に遊ぶ

＜被災地視察の様子＞

新地町釣師海水浴場前（1）

その（2）案内板

その（3）堤防も道路も破壊されたまま

原釜尾海水浴場展望台の止まったままの時計

南相馬市原町区（1）

その（2）立入禁止区域の直前の新築の家

その（3）津波をかぶった生活道具

その（4）海岸から１㌔ほどでも２階も被災